



Title	Thiol Protease Inhibitorの精製および性質の解明
Author(s)	平戸, 政行
Citation	大阪大学, 1984, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/33946
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名・（本籍）	ひら 平	ど 戸	まさ 政	ゆき 行
学位の種類	医	学	博	士
学位記番号	第	6 4 0 8	号	
学位授与の日付	昭 和 59 年 3 月 24 日			
学位授与の要件	医学研究科 生理系専攻			
	学位規則第 5 条第 1 項該当			
学位論文題目	Thiol Protease Inhibitor の精製および性質の解明			
論文審査委員	(主査)			
	教 授 藤井 節郎			
	(副査)			
	教 授 坂本 幸哉	教 授 中川 八郎		

論 文 内 容 の 要 旨

（目 的）

近年, protease が生体内の蛋白質の代謝回転のみでなく, 種々の生命現象に重要な役割を果たしている事が明らかになり, これらの制御因子としての protease inhibitor の意義が注目されている。特に, 最近, 組織内の lysosome 顆粒に存在する protease の中で, 最も強い活性を占める thiol protease 群 (cathepsin B, H, L 等) が, 分離, 精製され, その性質が明らかになるとともに, 癌の転移, 筋ジストロフィー等の病態との関連性などが示唆され, この方面での protease の役割が注目されている。

それに対して, これらの thiol protease の制御因子および制御機構については, 十分な知識が得られていない。そこで, 我々は, これらの thiol protease に対する inhibitor を, 肝, 血清および初乳より初めて完全精製し, その酵素学的ならびに蛋白質化学的性質の解明を行なった。

（方法ならびに成績）

Wistar 系雄ラットを用いて, thiol protease inhibitor (TPI と略す) の組織および細胞内分布を cathepsin H の阻害活性で調べたところ, 肝, 腎, 肺など全ての組織の細胞質画分に広く分布していることが分った。これらのうち組織に存在する TPI として肝のものを, 体液に存在する TPI として血清中のものについて, その性質を検討した。

ラット肝の TPI は, 肝を de Duve らの方法に従い細胞分画し, 細胞質画分を pH 処理後, Sephadex G-50, DEAE-Sephadex, Sephadex G-75 による chromatography により, SDS-PAGE で単一にまで精製した。このものは, 分子量 12,400, pI 5.0 の熱に安定な蛋白質で, papain, cathepsin B, C, H および L などの thiol protease のみを特異的に阻害した。また, その酵素阻害様式は, 非拮抗阻

害を示し、 K_i 値は、 $4.1 \times 10^{-8} \text{ M}$ (cathepsin H) であった。

一方、ラット血清中には、高分子型TPI (Mr. 103, 000, pI 4.8)と低分子型TPI (Mr. 16, 000, pI 9.2) の存在が認められたが、後者は、今まで報告のない新しいタイプのinhibitor であり、低分子量で、高い等電点を持ち、thiol type cathepsin を強く阻害する事が特徴である。なお、ラット血清中には、低分子型TPI の量が少なく、精製が困難であるため、多量に入手可能なウシ血液を用いて、これらのTPIを精製した。

ウシ血清の高分子型TPI は、硫安分画後、DEAE-Sephadex, Papain-Sepharose, Sephadex G-150による chromatography で、一方、低分子型TPI は硫安分画後、Sephadex G-50, CM-Sephadex, Heparin-Sepharose, Sephadex G-75による chromatography で、各々、SDS-PAGEで単一にまで精製した。高分子型TPI は、分子量73,000, pI 4.4で papain に対して強い阻害を示し、cathepsin B, Hに対しては弱い阻害しか示さなかった。一方、低分子型TPI は、分子量15,500, pI 8.6で、thiol type cathepsin および papain に対して同等の強い阻害活性を示した。なお、高分子型TPIと低分子型TPI は異なる免疫原性を示した。

さらに、我々は、この新しいタイプの inhibitor が、ウシ初乳中に多量に存在する事を見出した。分娩後、TPI量は、1～3日目が最高値を示し、次第に減少して通常乳では殆んど検出できなかった。ウシ初乳中のTPIは、初乳(1日目)をpH処理後、硫安分画し、Sephadex G-50, CM-Sephadex および YMC-pack A 303, ODS 300を用いた逆相 chromatography により、2種 (peak-1, peak-2) の inhibitor を SDS-PAGE で単一にまで精製した。これらは、両者ともに分子量10,500, pI 10.0～10.3の塩基性蛋白で、血清の低分子型TPI 同様に、thiol type cathepsin に対して強い阻害を示し、阻害様式は、非拮抗阻害を示した。また、 K_i 値は、cathepsin Hに対して、 $5 \sim 6 \times 10^{-8} \text{ M}$, cathepsin Bに対して、 $1 \sim 2 \times 10^{-7} \text{ M}$ であり、thiol protease と1:1の complex formation を行ない阻害する事が判明した。peak-1, peak-2のアミノ酸組成は、ほぼ同じであり、peak-1のN-末端のアミノ酸配列を、PTH法で分析したところ、Arg-Leu-Leu-Gly-Gly-Leu-Met-Glu-Ala-Asp-Val-Asn-Glu-Glu-Gly-Val-Gln-Glu-Ala-Leu-X-Phe-Ala-Val- の配列を示し、N末端の近傍に非常に疎水性の高いアミノ酸が並んだ特徴的な構造を示した。

(総括)

ラットの各組織の細胞質画分に、lysosome 顆粒に存在する thiol type cathepsin の inhibitor が存在する事を見出し、肝の thiol protease inhibitor を初めて完全精製し、その性質を明らかにした。また、ラットおよびウシ血清中に低分子、塩基性の新しいタイプの thiol protease inhibitor が存在する事を見出した。さらに、ウシ初乳中にも、この新しいタイプの inhibitor (Mr. 10,500, pI 10.0～10.3) が多量に存在する事が判明した。精製された血清および初乳のこれらの inhibitor は、いずれも thiol type cathepsin を強く阻害し、その阻害様式は、非拮抗阻害を示した。さらに初乳の inhibitor は、アミノ酸組成およびN-末端アミノ酸配列が、今までに報告のない特異なものであった。

以上のように、性質の異なる thiol prntase inhibitor が、その分布を異にして存在する事が明らかになった事は、これらの inhibitor の生理的意義を考える上で重要であると思われる。

論文の審査結果の要旨

本論文は細胞内チオールプロテアーゼに対する内在性インヒビターの存在をラット肝，ウシ血清及び初乳中で始めて明らかにし，精製を行ない性質を明らかにしたものである。

従来，細胞内，特にリソゾーム中のカテプシン系酵素の生理的意義については細胞内機能あるいは構造蛋白質の代謝回転という点で注目されてきたが，最近，種々の生命現象，特に，癌あるいは筋ジストロフィーなどの病態との関連性が急速に着目されつつある。従がって，この時期，本インヒビターを精製し，種々の性質を明らかにしたことは，細胞内プロテアーゼの活性発現及び制御機構を解析する上でも，さらに，それら機構の乱れから生じる疾病の生化学的解明の上からも重要な知見であり，医学博士の学位論文として十分価値あるものと認める。